

25.3.16 長崎新聞

なま



なかむら たける
中村 尊

生命の特徴

さらに、生命は他の生命や自然などの環境に関わるために五感を持って生まれてきます。赤ちゃんがいろんなものに触りたがるのも触感を通して他との関わりを模索するからでしょう。

子どもが成長する過程において、大人は生命の特徴を尊重しながら関わるのが大切です。

人と違うことに不安を感じて育てられたら、生命は自信をなくす

返し卵から胎児へと自ら変わります。産声をあげてからもハイハイしたり歩きだしたりと自ら成長します。生命は根本的に自ら成長する力を持っています。

かもしれない。「うちの子は…」という言葉がポジティブなイントネーションで発せられるといいですね。

それから、子どもを変えよう変えようとしていませんか？ 大人が力などで変えようとするればするほど、生命は否定されたと感じ自尊心を失っていくと思います。

また、ひきこもっている人も、部屋にこもりながらネットで他者との関わりを求めています。コミュニケーションが苦手でも、求めている関わりに応えられる環境があれば生命は安心できるかもしれません。

大田さんは「生命は自然を舞台とする社会的文化的胎盤の中に生まれる」とも語られました。私たちは子どもたちを温かく包み育む胎盤なのだを教えていただきました。

(長崎県子ども若者総合相談センター長、フリースタール代表)

2月に開催された日本フリースタール大会で、大田さんの「生きること、学ぶこと」という講演会がありました。大田さんは日本を代表する教育研究者で、「日本子どもを守る会」の名誉会長として94歳の現在も活躍されています。講演では「生命の特徴」として①違うこと②自ら変わる力を持つこと③関わることの三つを語られました。まず、命はひとつひとつ違う設計図(DNA)を持って生まれます。人間などの有性生殖生物は子孫に命をつなぐ時、わざわざ他のDNA(配偶者の特徴)を掛け合わせます。生命が、違うことを受け入れ尊重している証です。次に、母体内に生命が芽生えた瞬間から、生命は細胞分裂を繰り返